



- ①よさを伸ばし合う子ども
- ②つながりを大切にする子ども
- ③自らとふるさを拓く子ども



自分の命は自分で守る!!

5月30日(木) 避難訓練



緊急放送で流れる緊急地震アラームと先生の指示から判断し、適切に身を守ることを目的に、避難訓練を実施しました。

避難後、消防署員の方が、過去の大きな地震を紹介した上で、「過去の災害は未来へのメッセージである。今日のような訓練を積み重ね、日頃から危機意識をもってほしい。」とお話してくださいました。

地震に限らず、自然災害が起きた場合、どこにいても100%安全であるということはありません。また、「いつ」「どこに」いるかによって避難の仕方も違います。いざというときに、自分で考え、判断して、落ち着いて行動できる力を身に付けてほしいと思います。今後も「自分の命は自分で守る」ことができるよう、様々な場面を想定した避難訓練を行っていく予定です。



ふるさとの自然と歴史にふれる

～3年 ジオサイト見学～

5月28日(火)、3年生が校外学習で今年度最初のジオサイト見学に行ってきました。

場所は、ぶなっこランドと白神山地を源にする真瀬溪流の名所、「三十釜」です。

ガイドの方の説明を聞きながら、川沿いを散策したり、ぶなっこランドを見学したりしながら、教えてもらったことや見たこと感じたことをしっかり記録してきました。

ふるさとの自然や歴史にふれる体験を通して、各自で設定した課題の解決を図るとともに、八峰町のよさを改めて知る機会になればと思います。



鍵盤ハーモニカ スタート講習会



5月30日(木)、1年生対象の鍵盤ハーモニカ講習会が行われました。4月に3年生にご指導くださった能代市の工藤絵里奈先生を講師にお招きしました。指導を受けて、上手に音が出せるようになりました。

最初、指に番号をつけて、指が動くか確認。

鍵盤の数を確認して、講師の先生の後に続いて吹いてみました。



〔6月の主な行事予定〕



3日(月) 水産教室(4年) 学習強調週間(～7日)	17日(月) 花の苗植え マラソン予備日 ヘルハピ週間(～21日)
4日(火) 第1回授業研究会	18日(水) 第2回授業研究会
6日(木) 職場見学(6年)	20日(木) プール清掃(5・6年)
7日(金) 地域あいさつ運動 児童集会	21日(金) 集金日 プール清掃予備日
10日(月) 救急救命講習会(6年)	22日(土) 全県学童野球大会(～29日) 夏季ミニバス大会(～23日)
11日(火) 歯科教室(4年)	25日(火) かもめ読み聞かせ
12日(水) 春季マラソン大会	26日(水) ジオ見学(6年)
13日(木) 租税教室(6年)	27日(木) 小中連携奉仕作業
14日(金) 全校遠足(男鹿水族館GAO)	



3年生自転車教室

交通ルールを守って安全に



5月24日(金)、3年生の自転車教室がありました。全体で安全な乗り方を確認し、その後、準備されたコースを自転車で走行しました。

クランクやS字カーブでは、ハンドルがぐらぐらしてうまく自転車をコントロールできない児童もいました。慣れるまでもう少し練習が必要なようです。

この日学んだことを生かし、安全に自転車に乗ってほしいものです。



5月25日(土)・26日(日)に行われた学童野球県大会に所属する八峰グロリーズが優勝しました。初戦、決勝戦の二試合とも、相手を寄せ付けず、圧勝で全県大会出場を決めました。全県大会は6月22日(土)から長沼球場などを会場に行われます。全県大会での活躍も大いに期待しています。

今週の一枚

つばき

遊びの場は「学びの場」



小学4年の国語の学習の一環として、児童からインタビューを受けました。テーマは「小学生のとき、夢中になっていたこと」。

インタビュアーでは、当時好きだったオケラをモチーフにして漫画のキャラクターを自分で考案し、4コマ漫画を描いていたことと、釣りが好きで、休日は友達と一日中釣りをしていて話を話しましたが、後からもう一つ夢中になっていたことを思い出しました。それは、「紙メンコ」です。私たちは当時、「ぱっち」と呼んでいました。

段ボールがあれば、「ぱっちしよう」と、誰からともなく声がかかり、始まります。段ボールの上から相手のメンコを落としたり、段ボールの上で裏返したりして自分のものにするのですが、それには「技」があり、その習得のため何度も練習をしたものです。

また、時々、レアなメンコが誰かから出されると、手に入れたたくて躍起になりました。友達の家の駐車場、同級生だけでなく、時には上級生や下級生も入り、「ぱっち」に熱くなっていたことが思い出されます。

今、ふり返ると、昔の遊びの場は他者とうまく関わる学びの場となっていたような気がします。

遊びの中でトラブルが生じたとき、同級生や異学年の人たちと、お互いの考えを主張し合ったり、折り合いを付けたりしながら解決を図ったものです。それは、メンコに限らず、昔の様々な遊びで見られることだったのではないのでしょうか。

近年、かつて遊び場だったところは危険な場所とされ、遊びの多様化で室内で楽しめるものが増えました。子どもたちの遊びの「空間」は小さく、「時間」も「仲間」も少なくなり、より他者との関わりが希薄な社会となっています。地域から子どもたちの声が消えて寂しいという声も耳にしますが、これも時代の流れで、しょうがないことなのではないでしょうか。

